鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 27 年 6 月 19 日）

【三八】公伯寮　子路を季孫に愬う。子服景伯　以て告ぐ。曰く、夫子 固より公伯寮に惑志有り、吾が力猶能く諸を市朝に肆さんと。子曰く、道の将に行われんとするや、命なり。道の将に廃れんとするや、命なり。公伯寮　其れ命を如何にせんと。

公伯寮が子路のことを季孫に告げ口をした。子服景伯が、このまま態度を変えないと子路が困ったことになる。私は多少の力があるから、公伯寮を罪に落として処刑台に晒すことができるが、どうしましょうかと孔子に聞いた。孔子は、そんな無茶なことはしなくてもよい。孔子が進めようとしている道が天に認められているものなら実行されるだろうし、もしも天が受け入れられないような道で廃れるなら、それも天命である。公伯寮ごときが自分に与えられた天命をどうこうすることは出来るわけがない。

孔子が自分の力を信じきって話していると感じます。私のために手荒なことをやらなくてもよい。何故なら私の教えは、実行できるものだと考えているという科白です。
子路が 60 歳になる頃の話です。子路が季孫氏で家老職に就いたのは 45 歳の時で、その後、孔子が旅に出るのに従い、また戻って来て季孫氏に仕えました。かなり円熟味を増しているころです。（子路は相当な実力を持っていて、天が実行させようということであれば、実行できるはず。またそれだけのものを身につけていると孔子は思っているようである）
この頃は、孔子もかなりの年ですから、手荒なことはしたくない状況ではないかと考えます。

今の時代に例えますと、安倍さんが新たな法案を通そうとしている。今でいけば集団的自衛権を通そうとして手練手管をしているが、野党が色々と言ってきます。その最中に安倍さんの味方を維新の党がしようとしているけれども、維新の党の松野さんがとんでもない借金をしていて、味方にするには危なっかしい。それを野党が、後ろからチクチクと攻撃を仕掛けた。それを安倍さんが毅然として「松野さんがなんぼ金を借りようが何をしようが、私が考えて実行しようとしている集団的自衛権は、岸元首相からの悲願である。自民党の悲願でもあるから、いまさら野党が言っても天が通させようとしているなら、通るに決まっている。そんな余計なことを野党が言わなくてよい」と、読めば置きかえは可能ですが、話をしながら安倍さんをそんなに偉くしちゃいけないなと思って、今日は曲解を

しながら説明をいたしました。

　要は孔子が自信満々でやることを公伯寮ごときが何かしても私は潰れやしない。いわんや弟子の子路だって大丈夫だということで、自分の行動に対する自信が満々に溢れているとご理解ください。